

早いもので、もう師走を迎えましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
朝晩冷え込む日も増えてきましたので、風邪等引かれません様、ご留意下さい。



『自己点検評価報告書作成等に関する講習会』に参加しました。

10月20日(金)に順天堂大学において、『自己点検評価報告書作成等に関する講習会』が開催されました。まず、『日本医学教育評価機構 (JACME) による医学教育分野別評価での自己点検評価』と題して、常勤理事 総合評価部会長 奈良信雄先生のご講演がありました。医学教育分野別評価での自己点検評価報告書の作成のルールとして、

- A. 基本的水準に関する情報に関して: 「現状」をそれを裏付ける根拠資料とともに現在完了形で説明する。
- B. 基本的水準に関する現状分析と自己評価に関して: Aの「現状」を根拠資料に基づいて分析し、「特徴および優れた点」と「改善すべき点」を考察し、記載する。
- C. 現状への対応に関して: Bの「特徴および優れた点」を伸ばすために現在行っている活動、あるいは短期的な活動計画と、Bの「改善すべき点」を改めるために現在行っている活動、あるいは短期的な行動計画を現在進行形で記載する。
- D. 改善に向けた計画に関して: 「特徴および優れた点」と「改善すべき点」を踏まえた中長期的な行動計画を記載する。

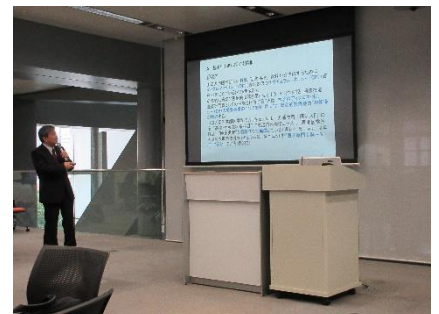
を挙げられ、**自己点検評価報告書は、エビデンスとなる根拠資料に基づき、客観的な考察を行った学術論文スタイルで記載する**ようにと説明がありました。続いて、自己点検評価報告書の作成(書き方)に関する説明があり、

1. 他の領域と内容が重複しないようにする。そのため、全体像の把握が必要である。
2. その領域で問われていることだけに関して記載する(評価者も問われていること以外のことは問えない)。
3. 語句の定義を厳密に守る必要がある。
4. 上記の自己点検評価報告書の作成のルールのA, B, C, Dは、 $A \Rightarrow B \Rightarrow C \Rightarrow D$ と時系列を考えて記載する必要がある(Cで記載すべき内容をDで記載している例が多い)。
5. 分かりやすさを重視する(小見出しを付けて、箇条書きにしても良い)。
6. 簡単な図表は本文に挿入する。

といった点を強調して、説明されていました。

今回の講習会では、各大学に事前に課題が与えられ、山口大学は領域2の「教育プログラム」に関して自己点検評価報告書の作成を予め行い、本講習会に参加しました。奈良先生のご講演の後、同じ班の他大学の先生方とディスカッションし、自己点検評価報告書の修正を行いました。それから、修正前と修正後の両方の自己点検評価報告書を発表し、貴重な意見・提案を頂くことができました。

今回の講習会で学んだことを今後、実際に自己点検評価報告書を作成する際に活かしていきたいと思っております。



『ルーブリックを活用した学修評価ワークショップ～ルーブリックの観点と記述に着目して～』に参加しました。

11月10日(金)に本学吉田キャンパスにおいて、『ルーブリックを活用した学修評価ワークショップ～ルーブリックの観点と記述に着目して～』が開催されました。まず、『ルーブリックによる学修評価を知る、活かす』と題して、高知大学地域協働学部の俣野秀典先生のご講演が行われました。

ルーブリックとは、目標に準拠した評価のための基準づくりの方法論で、多くの場合、タテ軸に複数の評価項目を、ヨコ軸にそれぞれの段階における到達レベルをとり、点数化したものですが、これにより、明確かつ公平な評価基準が設けられ、学生の学習成果のより詳細な測定や基準が明確な成績評価を行うことが可能となります。その単元の評価項目や到達レベル(3～5段階)を設定し、それらの文章は長すぎず、客観的で現実的な内容のものであり、学生が自らの学習活動を評価できるように記述することが必要であるとのことでした。ルーブリックづくりの手順として、

- ①試行として課題を実行し、多数の学生の作品を集める。
- ②あらかじめ準備された数個の評価項目を用いて、1つの作品を3人が3～5段階評価で採点する。
- ③全ての作品を検討し終わった後で、全員が同じ点数をつけた作品を選び出し、それぞれの作品に共通してみられる特徴を記述する。(Wiggins, 1998をもとに作成) といったことを挙げられました。

続いて、『医学科チュートリアル教育におけるルーブリック活用実践』と題して、本学医学部の藤宮龍也先生のご講演が行われました。重点統合ユニット1(医学科2年生)において行われたルーブリックの実践例や生命倫理学(医学科1年生)において行われたeYUSDLの活用例を紹介され、演習・実習系ユニットでのルーブリック評価とeYUSDLの活用実践例を示されました。

今回のワークショップでルーブリックに対する理解が深まったと思います。今回学んだことを活かして、今後、演習・実習系のユニットを中心にルーブリック評価を徐々に取り入れていきたいと思っています。



医学科4年生への共用試験(OSCE, CBT)を実施しました。

11月18日(土)に共用試験OSCEが行われました。実習棟A2階チュートリアル室にて身体診察の試験が行われ、頭頸部診察、胸部診察・バイタルサイン測定、腹部診察、神経診察、救急に関する課題に取り組みました。医療面接は講義棟B 2階で行われました。午前中に試験が終了した学生と午後には試験を受ける学生が出会うことが決まらないう、最善の注意を払い、問題なく無事終了することができました。外部モニター委員の先生方からも非常にスムーズにOSCE試験の運営がなされており、また学生の理解度も総じて高いとのコメントを頂きました。

また、12月6日(水)に共用試験CBTが例年通り、工学部の情報処理演習室で行われました。外部モニター委員の先生方から非常にスムーズにCBT試験の運営がなされており、何も問題ありませんとの評価を頂きました。担当者の皆様のご尽力のおかげで、問題なく、進行することができました。どうも有難うございました。来年もより一層、円滑に進行できるように取り組んでいきたいと思っています。



ご意見・ご要望等につきましては、医学教育センターへ
お願いします。 TEL: 0836-85-3747

E-mail: mec01@yamaguchi-u.ac.jp